

海を測る

<< 講座内容 >>

「海を測るって、どういうこと？」

千手智晴（九州大学応用力学研究所 准教授）

「人工衛星で海を測る」

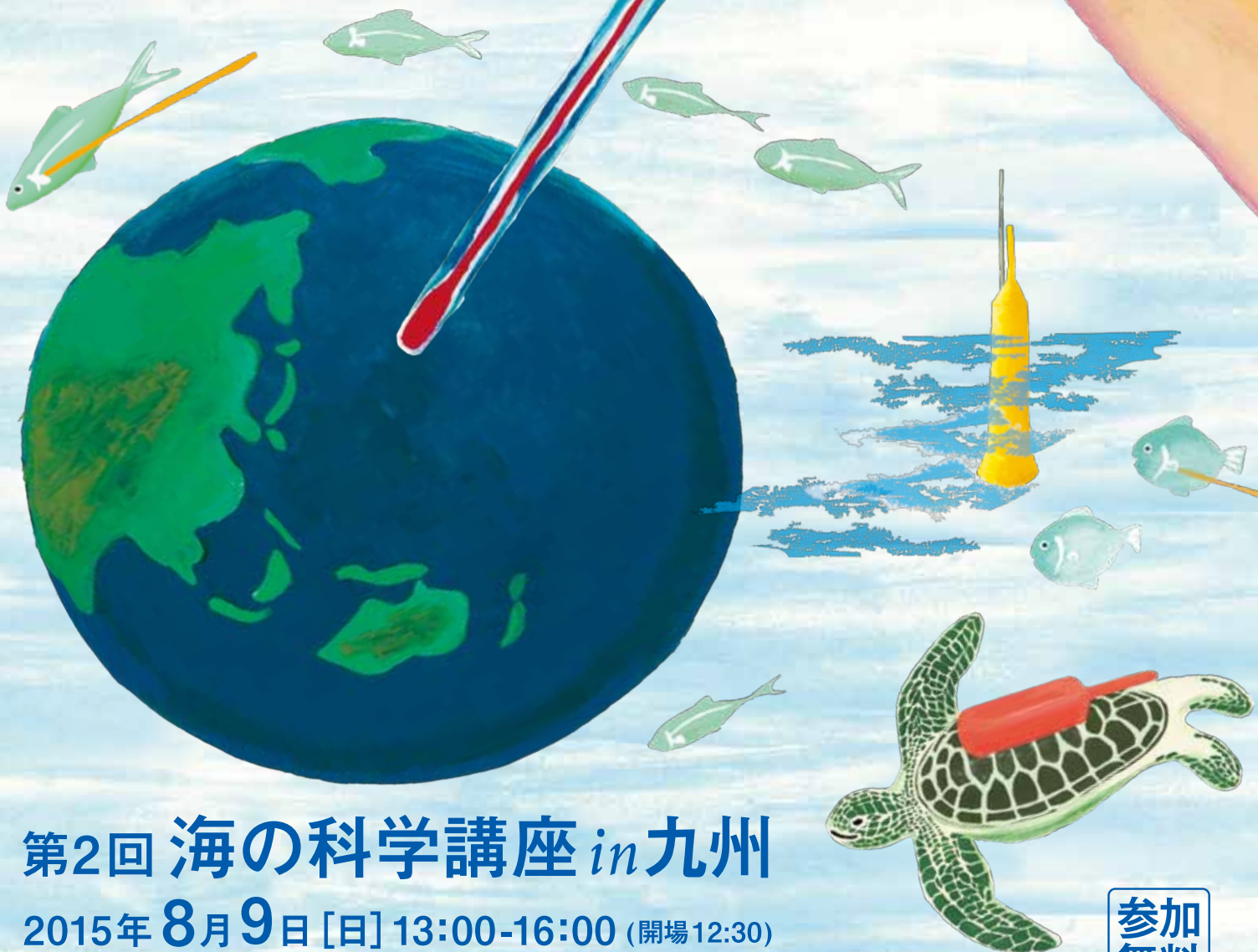
椋田貴郁（福岡管区気象台 地球環境・海洋課長）

「バイオリギングで‘見る’海洋生物の生態」

奥山隼一（西海区水産研究所 亜熱帯研究センター 研究員）

<< 司会進行 >>

岸真弓（気象予報士・キャスター）



第2回 海の科学講座 *in* 九州

2015年 8月 9日 [日] 13:00-16:00 (開場 12:30)

会 場：九州大学西新プラザ大会議室 (福岡市早良区西新2-16-23)

参加
無料

海の科学講座への招待

私たちの住む惑星「地球」。その表面の約7割を占める海について、私たちはどれくらい知っているでしょうか？ 普段から海に親しんでいる人でも、日本から遥かに離れた沖合いや、深海で起きていることを知っている人はあまりいないのではないかと思います。

じつは、海の専門家にとっても、限られた海の観測データから、海で何が起きているのかを知ることは、たやすいことではありません。しかしながら、最近は新しい観測技術が開発されて、今まで知ることができなかったさまざまなことが、わかるようになってきました。

今回の講座では、「海を測る」をキーワードに、最新のテクノロジーを駆使した海洋観測の最前線でわかってきた海の姿と、それが何を意味するのかを、高校生など若い人をはじめ一般市民の方々にわかりやすく紹介します。未知の海に興味を惹かれる方、なんだかわからないけどおもしろそうだな、と思った方、ぜひ参加してみてください。

講座内容・講師紹介

『海を測るって、どういうこと？』

講師：千手智晴（九州大学応用力学研究所 准教授）

すべての科学は、「観察」から始まります。海の科学も、海を「測る」ことが基本です。でも、広くて、深くて、とらえどころのない海を測るって、どういうこと？ そもそも「海を測る」ことに、どんな意味があるの？ 本講座では、そんな疑問に答えたいと思います。海洋観測といえば、船酔いに耐えながら現場観測をする姿が思い浮かびますが、近年では自動的に海中を浮き沈みするフロートや、人工衛星による遠隔観測が日常的に行われています。講座では、最新の海洋観測技術を紹介するだけでなく、「海を測る」ことの意味を考えていきたいと思います。



『人工衛星で海を測る』

講師：楳田貴郁（福岡管区気象台 地球環境・海洋課長）

船やブイなどによる海洋観測は、海面から深海まで高い精度で観測できますが、一度に広い範囲を観測するには向いていません。一方、人工衛星は宇宙から海面を見ることで、広い範囲を短い時間に繰り返し観測できる強みがあります。この強みをいかして、海面の状態を観測する手法がさまざま工夫され、さらには、海面の画像から黒潮などの海流の位置を推定するなど、応用もされています。

当日は、実際の画像データを用意し、クイズ形式をまじえながら、そうした工夫のたのしさを体験していただく予定です。



『バイオリギングで‘見る’海洋生物の生態』

講師：奥山隼一（西海区水産研究所 亜熱帯研究センター研究員）

生物の研究の第一歩は、とにかく生物を「見る」ことです。しかし、海に棲んでいる生物はどうやって見れば良いのでしょうか？ 水中ロボットを使ったりスキューバ潜水をしたとしても、長時間観察したり速いスピードで泳ぐ魚を追いかけることは至難の業です。追いかけることが無理ならば、機械をくっつけて生物自身に記録してもらえば良い。動物装着型小型記録計を用いた「バイオリギング」と呼ばれる研究手法は、そんな革命的な発想から生まれました。本講座では、バイオリギングによって明らかになった海洋生物の驚くべき生態を紹介します。



司会進行



岸 真弓（気象予報士・気象キャスター）

プロフィール：群馬県出身。学習院大学文学部卒業。気象予報士。日本気象協会に所属した後独立。現在、福岡と広島で気象キャスターとして、テレビやラジオに出演中。また、野菜ソムリエ等の資格を活かし、気象と農業を結びつけ、講演活動なども多数おこなっている。

問い合わせ：092-725-3613（福岡管区気象台 地球環境・海洋課）

共 催：福岡管区気象台、九州大学応用力学研究所、西海区水産研究所

後 援：福岡県教育委員会、福岡市教育委員会

ホームページ：http://www.riam.kyushu-u.ac.jp/ocd/umikouza/index.htm



地下鉄西新駅7番出口より徒歩約10分
駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。